

- ※ 地区防災計画作成マニュアル参考資料
- ※ あくまでも参考例ですので、このとおり作成を強制するものではありません。

〇〇地区防災計画

地区のイメージ図や写真を
貼り付け

令和〇年〇〇月

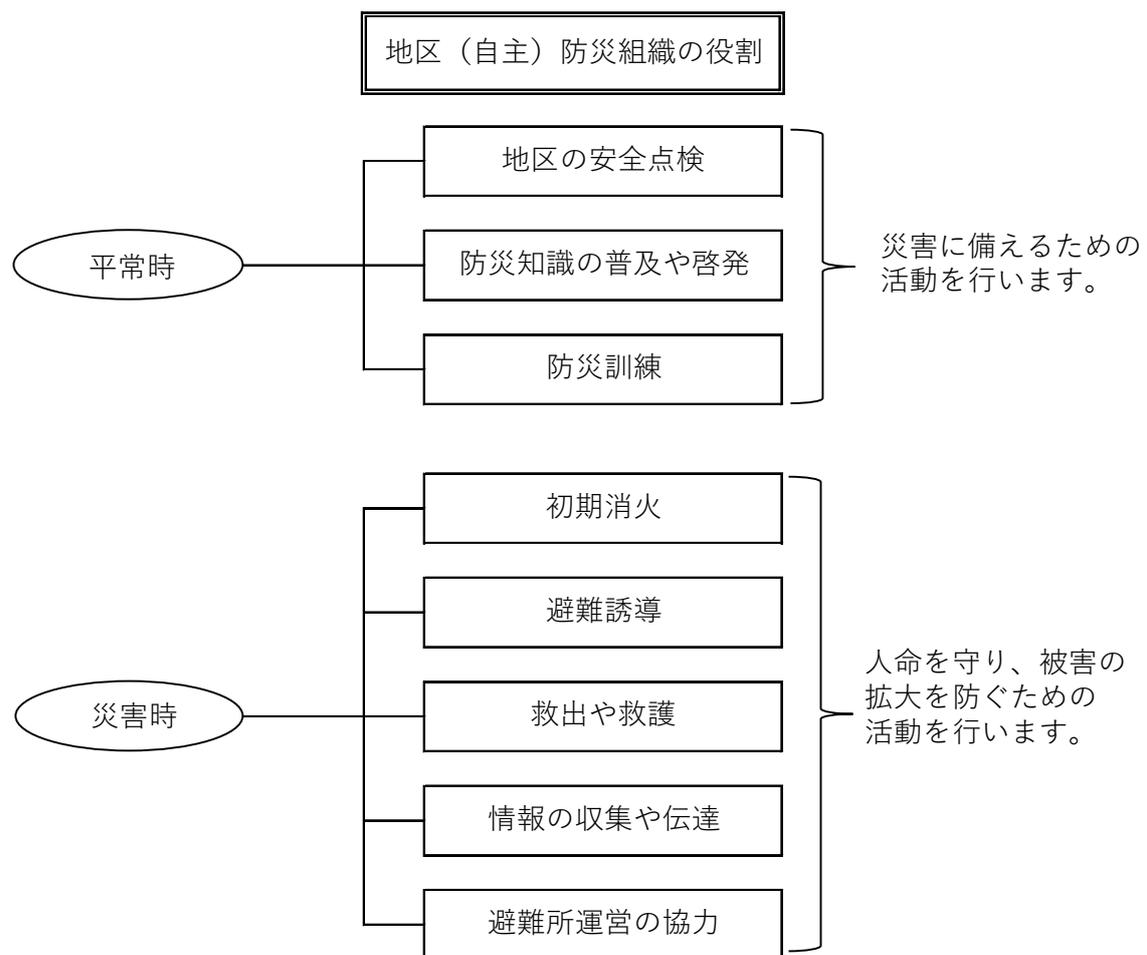
1 基本方針

災害が発生した直後は、交通網の寸断・火災の同時多発などにより消防や警察などの防災機関が十分に対応できない可能性があります。そのようなとき、力を発揮するのが「地域ぐるみの協力体制」です。

「東日本大震災」や「熊本地震」の際、被災者の救出に当たって活躍したのは地域の住民等であり、災害時には、自分の身は自分で守る「自助」はもちろんのこと、地域における自主防災組織、ボランティア、企業などが、共に支え助け合う「共助」が重要です。

私たちの地区では、「自分たちの地域は自分で守る」という心構えで、地区のみんなで助け合いながら、災害に強いまちづくりを進めます。

この取組を計画的に推進するため、地区住民を主体とした防災組織を構築し、この行動の規範としての「〇〇地区防災計画」を定め、平常時から備えの充実を図るとともに、災害時における「自助」、「共助」を着実に実行するため、この計画に基づく施策・事業などに取り組み、地区の防災力を高めていきます。



2 計画対象地区と策定主体

(1) 計画対象地区

「〇〇地区防災計画」は次表の地区を対象として定めます。

〇〇町	1丁目	〇〇番地

※対象地区は別添図（防災マップ）参照

(2) 計画策定主体

「〇〇地区防災計画」は下記の団体が定めます。

団体名称	所在	世帯数
〇〇自主防災会	東根市・・・	

3 地区の特性と予想される災害

(1) 地区の特性

〔記載内容〕地区の防災マップを作成し、地区の地形的な特徴や地区で災害が発生しそうな場所など、災害に関する情報をここに記載します。

(例)

- ・高低差の少ない平地に家屋等が多い地区である。
- ・大規模に開発されたニュータウンである。
- ・埋め立てによって形成された地区である。
- ・〇〇川が過去に大雨で氾濫したことがある。
- ・急傾斜地崩壊危険箇所がある。
- ・集中豪雨などで周辺地区が浸水したことがある。
- ・集中豪雨などで道路冠水しやすい箇所がある。

(2) 予想される災害

〔記載内容〕地区の特性に合わせて、想定される災害（被害の状況）をここに記載します。

(例)

- ・集中豪雨（ゲリラ豪雨）や台風により次の被害が想定される。
 - 〇〇川の氾濫や堤防の決壊、〇〇橋の損壊
 - 〇〇地区周辺で家屋への浸水
 - 〇〇地区周辺で道路冠水
- ・地震による災害
 - 家屋の倒壊や火災
 - 〇〇地区でがけ崩れ
 - 液状化

4 活動内容

(1) 平常時の取組

いざというときに地区の力が発揮できるよう、地区のみんなで協力して防災活動に取り組みます。

ア 防災知識の普及・啓発

防災対策では、地区住民の1人ひとりが防災に関心を持ち、準備することが重要です。地区住民への防災知識の普及や啓発活動を行います。

イ 地区の安全点検

防災の基本は、自分たちの住むまちを知ることです。地区の危険な場所や防災上問題のある場所などを確認し、改善のための働きかけなどを行います。

ウ 避難所・避難経路の確認

発災時には素早く、安全に避難することが必要です。地域住民一人ひとりが、自分が避難する指定避難所、一時避難所を確認し、また、そこへの避難経路も確認しておきます。

エ 防災資機材の整備

防災資機材は、災害発生時に役立ちます。地区で防災資機材を整備し、日頃の点検や使用方法を確認します。

オ 防災訓練

防災訓練は、いざというとき、あわてず、的確に対応するための欠かせない活動です。地区住民に積極的な参加を呼びかけて、訓練を行います。

(2) 災害時（非常時）の取組

災害時は、負傷者の発生や火災など様々な事態が発生する可能性があります。公共機関とも連携しながら、みんなで力を合わせて被害の軽減に向けて活動します。

ア 情報の収集・伝達

公共機関などから正しい情報を収集し、地区住民に伝達します。また、地区の被災状況や火災発生状況などを取りまとめ、防災機関へ報告します。

イ 救出・救助活動

自分自身がケガをしないよう注意しながら、みんなで協力して負傷者や家屋の下敷きになった人の救出・救助活動を行います。

ウ 初期消火活動

消防車が到着するまでの間、火災の延焼拡大を防ぐための初期消火活動を行います。

エ 医療救護活動

医師の手当てが受けられるまでの間、負傷者の応急手当をして、救護所へ搬送します。

オ 避難誘導

地区住民を安全な場所などへ誘導します。

カ 給食・給水活動

地区で必要な物資を把握し、公共機関とも連携しながら、必要に応じて炊き出しなどの給食・給水活動を行います。

(3) 避難行動要支援者等への支援

災害時に大きな被害を受けやすいのは、高齢者や障害者、子どもなど、人の助けを必要とする人（避難行動要支援者）です。こうした避難行動要支援者を災害から守るため、みんなで協力しながら支援を行っていきます。この取組を着実に進めるため個別計画を定めることが重要です。

ア 避難行動要支援者の身になって、防災環境の点検・改善を行う。

目や耳の不自由な人にも、警報や避難情報がきちんと伝えられるか、避難経路等に障害物や危険な場所はないかななどを点検し、改善に努めます。

イ 避難するときは、しっかり誘導する。

隣近所の助け合いが重要です。一人の避難行動要支援者に複数の避難支援者を決めておきます。

ウ 困った時こそ温かい気持ちで接する。

非常時こそ、不安な状況に置かれている人にやさしく接する必要があります。困っている人や避難行動支援者には、思いやりの心を持って接します。

エ 日頃から積極的にコミュニケーションを図る

いざというときに円滑に支援ができるよう、日頃から積極的に避難行動要支援者とのコミュニケーションを図ります。

5 地区の防災対策（具体的な対策）

（1）防災体制

組織名称等	地区の状況		
〇〇自主防災会	世帯数： 人 口：	事業所数： 従業員数：	
1 組織の体制	役員		電話番号
	会長		TEL
	副会長		TEL
	〇〇班長		TEL
2 避難場所等	施設名	管理者	電話番号
	〇〇公民館		TEL
	〇〇小学校		TEL
	〇〇中学校		TEL
	〇〇		TEL
			TEL
※ 避難経路	防災マップのとおり		
3 緊急時の 連絡先	連絡先		電話番号
	東根市役所		TEL
	〇〇公民館		TEL
	東根市消防署		TEL
	村山警察署・・・		TEL
	北村山公立病院		TEL
	〇〇クリニック		TEL
	東北電力（〇〇営業所）		TEL
	NTT東日本		TEL
	災害用伝言ダイヤル（録音時）		TEL
	災害用伝言ダイヤル（再生時）		TEL
			TEL
4 その他 特記事項			TEL

(2) 活動体制

地区対策本部の立ち上げの判断は、〇〇地区自主防災会長の指示のもと、各対策班の班長の招集により、地区対策本部を立ち上げます。

地区対策本部の立ち上げ後は、以下の対策班をもとに、災害対応を実施します。

班編成（例）

班名等	担当者	平常時の役割	災害時の役割
総務班 (本部)	〇〇〇〇	全体調整 関係機関との事前調整	全体調整 関係機関との調整 被害・避難状況の全体把握
情報班	〇〇〇〇	啓発・広報	公共機関等からの情報収集・伝達
消火班	〇〇〇〇	器具の点検・整備	消火器・バケツリレーなどによる初期消火
救出・救護班	〇〇〇〇	資機材・器具の点検・整備	負傷者等の救出、応急手当・救護所等への搬送
避難誘導班	〇〇〇〇	避難経路の点検	住民の避難誘導
給食・給水班	〇〇〇〇	器具等の点検・整備	炊き出し等の給食・給水活動
福祉班	〇〇〇〇	避難行動要支援者の支援体制の整備	避難行動要支援者の避難行動等の支援

【災害時の活動内容】

ア 組織活動の全体把握、組織の全体調整

組織全体の動きを把握するとともに、被害情報や今後の災害の移り変わりなどから、組織の活動体制を決定します。

イ 情報の収集・伝達

公共機関などから正しい情報を収集し、地区住民に伝達します。また、地区の被災状況や火災発生状況などを取りまとめ、防災機関へ報告します。

ウ 初期消火活動

火災が発生した場合、消防車が到着するまでの間、火災の延焼拡大を防ぐための初期消火活動を行います。

エ 自分自身がケガをしないよう注意しながら、みんなで協力して負傷者や家屋の下敷きになった人の救出・救助活動を行います。

また、医師の手当てが受けられるまでの間、負傷者の応急手当てをして、救護所等へ搬送します。

オ 避難誘導

地区住民を避難場所などの安全な場所へ誘導します。

カ 給食・給水活動

地区に必要な物資を把握し、公共機関とも連携しながら、必要に応じて避難所等で炊き出しなどの給食・給水活動を行います。

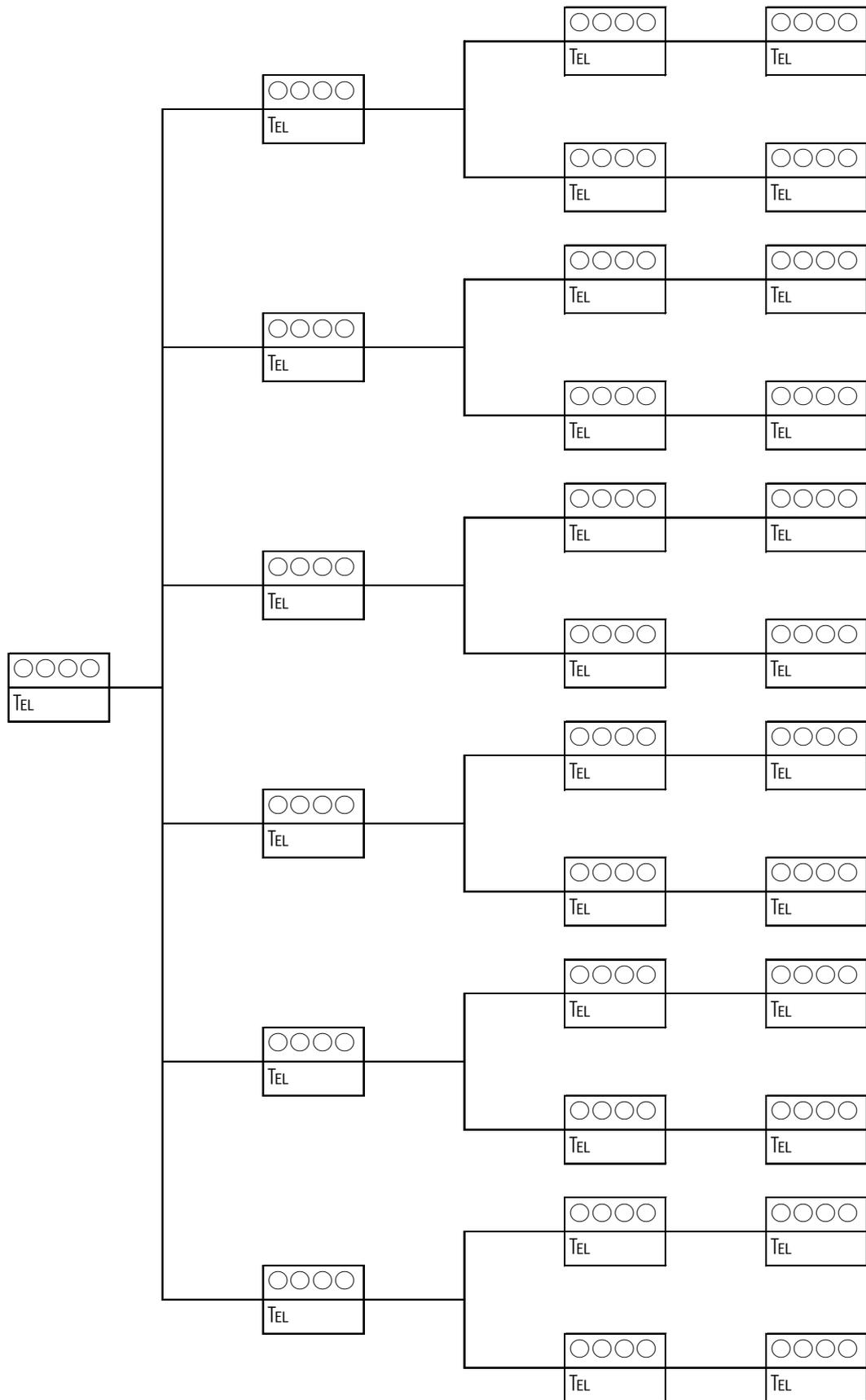
キ 避難行動要支援者の支援

避難行動要支援者の安否確認、避難の支援を行います。

コ 避難所の運営委員会の立ち上げ

避難所開設に伴い、避難所運営委員会を立ち上げ、行政と連携し避難所運営に携わります。

(3) 地区の連絡網



(4) 防災資機材等

ア 保有防災資機材

名称	物資名	数量	備考
〇〇倉庫 (住所)	ヘルメット	〇	
	メガホン	〇	
	リヤカー	〇	
	投光器	〇	
	発電機	〇	

(参考) 資機材の例 (目的別)

目的	資機材
① 情報収集・伝達	トランジスタメガホン、携帯用ラジオ、腕章、住宅地図、模造紙、ホワイトボード、トランシーバー、メモ帳、油性マジック等
② 初期消火	小型動力ポンプ、発電機、消防用ホース、消火器、ヘルメット、水バケツ等
③ 水防	ブルーシート、シャベル、つるはし、スコップ、ハンマー、ロープ、かけや、くい、土のう袋、ゴム手袋等
④ 救出	バール、はしご、のこぎり、スコップ、なた、ジャッキ、ハンマー、ロープ、チェーンソー、小型ウインチ、防塵マスク、軍手等
⑤ 救護	担架、救急箱、テント、毛布、シート等
⑥ 避難所運営協力	リヤカー、発電機、警報器具、懐中電灯、投光器、標識、強力ライト、簡易トイレ等
⑦ 給食・給水	炊飯装置、鍋、コンロ、ガスボンベ、給水タンク等
⑧ 訓練・啓発	放送機器、視聴覚器具(ビデオ、映写機等)、住宅用訓練火災警報器、家具転倒防止等資機材、非常用備蓄品等
⑨ その他	簡易機材倉庫、ビニールシート、携帯電話機用充電器、ビブス(ベスト)、布テープ等

6 地区防災マップ

〇〇地区防災マップ

地区等で作成された地区防災マップを添付してください。

マップが大きい場合・別添としてください。

マップ作成時には、市ハザードマップや住宅地図、グーグルマップ等
をご利用ください。

(記載する情報の例)

- ・避難場所、避難経路
- ・避難行動要支援者世帯（※要注意）
- ・消防署、警察署、公共施設、福祉施設
- ・防災器具庫（消火栓、防火水槽）
- ・危険な場所（狭い道、河川、がけ地など）

※まち歩きを実施し、地区の危険箇所等を把握しましょう。

※地区で防災ワークショップを行い、地区の特性を知るとともに
みんなで情報を共有しましょう。

凡例

7 平時の取組

(1) 地区防災訓練の実施

災害発生時に、地区住民が「地区防災訓練」に沿って適切な行動ができるよう、市や消防署等とも連携しながら、次の訓練を中心とした地区防災訓練を毎年度実施します。

- ア 避難訓練（避難行動要支援者の支援を含む）
- イ 情報収集・伝達訓練
- ウ 初期消火訓練
- エ 応急手当訓練
- オ 救出・救助
- カ 給食・給水訓練
- キ 啓発活動

訓練の実施後は、訓練結果を検証し次回訓練に反映するなど、定期的に活動内容を見直し、必要であれば「地区防災訓練」の見直しを行います。

(2) 資機材、器具等の点検

活動体制の各班を中心に、資機材、器具等の点検を定期的実施します。

班名	担当者 (団体者等)	内容	時期
消火班	〇〇〇〇	消火器具の点検（整備）	地区防災訓練前
救出・救護班	〇〇〇〇	防災資機材・救出用器具の点検（整備）	地区防災訓練前
避難誘導班	〇〇〇〇	避難経路の点検（整備）	毎年〇月
給食・給水班	〇〇〇〇	給食・給水器具の点検（整備）	地区防災訓練前

(3) 要配慮者（避難行動要支援者）への支援体制の整備

活動体制の福祉班を中心に、要配慮者（避難行動要支援者）の支援体制を整備します。

班名	担当者 (団体者等)	内容	時期
福祉班	〇〇〇〇	支援体制・方法の検討・整理	〇〇〇〇年度まで
		対象者の把握（市から提供）	〇〇〇〇年度まで
		個別計画の作成完了	〇〇〇〇年度まで
		定期的な個別計画の見直し	毎年度

資 料 編

(防災に役立つ情報など)